日本マレーシア学会「フォーラム」 (http://jams92.org/forum.html) 2008 年 5 月 24 日公開

マハティール前首相、UMNO を離党 (2008.5.19)

スピーチの名手マハティール

岡本義輝

(宇都宮大学大学院博士課程)

筆者は2000年4月から2003年7月までの3年余、仕事でクアラルンプールに在住した。 ちょうどこの3年間はマハティール長期政権の最後の時期と重なっている。仕事柄、パーティーや式典に招待を受ける機会が多かった。その中で何度かはマハティールが主賓として出席しており、彼の演説を直接聞くことができた。首相のスピーチが30分から1時間くらいあった後、食事というパターンが多かったように記憶している。演説は全て原稿なしで、最初の5分ぐらいはマレー語で、残りは英語であった。比較的ゆっくりとした口調の演説で、時折ジョークも交え、英語のヒヤリング能力が乏しい小生でも大半は理解できた。アブドラーの演説は、少し実際と違うかも知れないが、原稿を読み、マレー語だけで、大分違うなとの感想を持った。

2002 年 6 月の UMNO 党大会の閉会式のニュースをテレビで見ていたが、マハティールが「UMNO・BN の議長職を辞任」と発言し、驚いて首相のもとに詰め寄ったラフィーダ通産大臣に対し"Decided"と英語で答えていたのが印象的であった。

また、憲法上批判を禁止されているはずの「ブミプトラ」について、彼は、演説で怠惰なマレー人を嘆き、と同時に勤勉な華人を見習えとの話も何度もした。年率 7~8%の経済成長を遂げる中で華人の不満を吸収し、その間にブミプトラの優遇処置で彼らの生活を向上させるというマハティールの政策が、考えは良かったが、現実にはうまく行っていない嘆きも窺い知ることができた。

下世話な話を 1 つ。2003 年 7 月の帰国後、マレーシアには 30 回くらい出掛けている。移動中に、企業やタクシーの運転手と話す機会が多かった。彼らのマハティールへの評価は "excellent"あるいは"clever"と概ね良く、対するアブドラーは前首相に比べ"so-so"であり1~2ランク落ちるというのが平均的な評判であった。■